

3. チュービンゲン手術センター（2010・7・1）

★運用概要

- ドイツはチュービンゲンにある手術センターを訪れた。所謂シミュレーションセンターである。現在は、80社程からなるスポンサーにてセンターの運営を行っている。
- 特徴としては、研修・教育施設として、病院関係者、メーカーとが一体となって、使い易い器具・器材の改良や開発、技術の向上にあり、立場の違う者同士の議論により相乗効果が生まれることであろう。
- ただ単に、センターの場の提供ではなく、センター運営者自身が、病院を知っていることと、病院の抱える悪い癖・傾向を把握しているに他ならない。
- では、病院の抱える悪い癖とはなにかと言うと、次に掲げる3点が上げられる。
 - ①ドクターが施設・医療機器に関しては、7割程しか使いこなせていない。
 - ②ワークフローが守られていない。明確になっていない。
 - ③施設と医療技術のミスマッチ
- 病院の状況により取組む手法は異なるであろうが、現状を把握し(ビデオなどで)分析を行う。かれらは手術部門における総合コンサルタントである。
- 但し、1点分からなかったのは、手術後必ずやらなければならない事として、①包帯バンテージ ②清掃 であるが、やらない病院があるのだろうか？という素朴な疑問が沸いた。

